
電波の有効利用促進のための安全な無線LANの利用に
関する普及啓発事業（平成27年度）

公衆無線LAN利用に係る調査結果

総務省 情報セキュリティ対策室

調査の概要

項目	内容	
調査の目的・背景	<p>総務省では2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催を見据えて、観光立国を推進する観点から、関係省庁、関係団体とも協力しつつ、公衆無線LANの整備促進に取り組んでいる。公衆無線LANは外出先等で高速な回線を利用できる点で便利である一方、盗聴、なりすましといったセキュリティ上の懸念もあり、正しい知識を持って利用する必要がある。</p> <p>総務省では、公衆無線LANの利用状況や情報セキュリティに係る意識及び対策状況について調査を実施し、利用者の意識や行動の経年変化を把握する。</p>	
調査の視点	<p>主に以下3つの視点を明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普段公衆無線LANを利用している国内観光客における公衆無線LANの利用状況等の経年変化 ● 国内観光客(公衆無線LAN利用者と自宅のみWi-Fi利用者)における情報セキュリティ意識、対策状況の移動 ● 一般ユーザ(公衆無線LAN利用者と自宅のみWi-Fi利用者)における公衆無線サービスならびに情報セキュリティに関する実態、ニーズ 	
調査方法	Webアンケートによる調査	
調査時期	平成28年3月11日～15日	
調査対象	スマートフォンまたはタブレット端末を利用して無線LANを日常的に利用している20～69歳の人 1,278人	
	<p><公衆無線LAN利用者> 公衆無線LANを日常的に利用している人807人</p>	<p><自宅のみでの無線LAN利用者> 自宅でのみ無線LANを日常的に利用している人471人</p>
	<p><うち観光客> 上記のうち、首都圏以外に居住し、最近1年以内に首都圏を観光で訪れ、スマートフォンまたはタブレット端末を利用してインターネット接続をした経験のある人326人</p>	<p><うち観光客> 上記のうち、首都圏以外に居住し、最近1年以内に首都圏を観光で訪れ、スマートフォンまたはタブレット端末を利用してインターネット接続をした経験のある人216人</p>
調査事項(設問)	公衆無線LANサービスの利用状況、満足度、利用に当たっての情報収集の有無、公衆無線LAN利用に係る脅威の理解度、情報セキュリティ対策状況、公衆無線LANサービスの改善点、今後利用したい通信手段 等	

<調査結果の表記に係る注意事項>

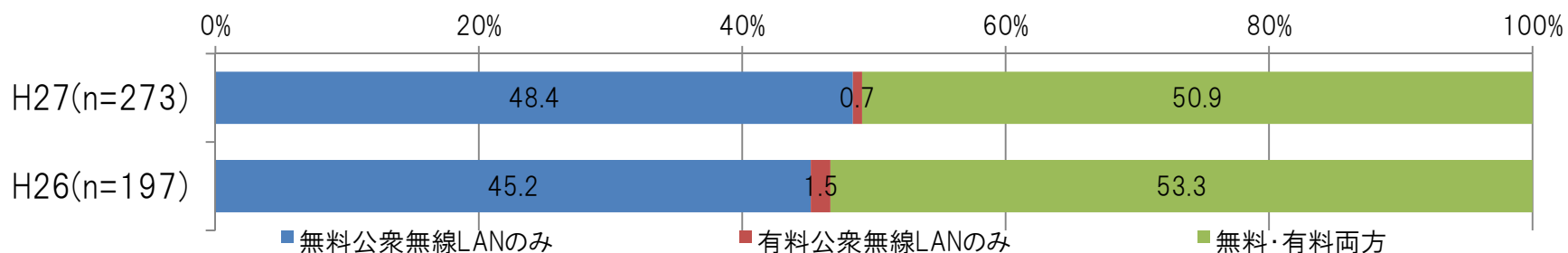
- ・ アクセスポイントは「AP」と記載しています。 ・ ユーザIDは「ID」、ログインパスワードは「PW」と記載しています。
- ・ 設問によっては「公衆無線LAN」を「Wi-Fi」と表記している場合があります。

Point 1

公衆無線LANユーザは「無料サービスのみのユーザ」と「無料サービスと有料サービスの併用者」がほぼ半々の比率となっている。

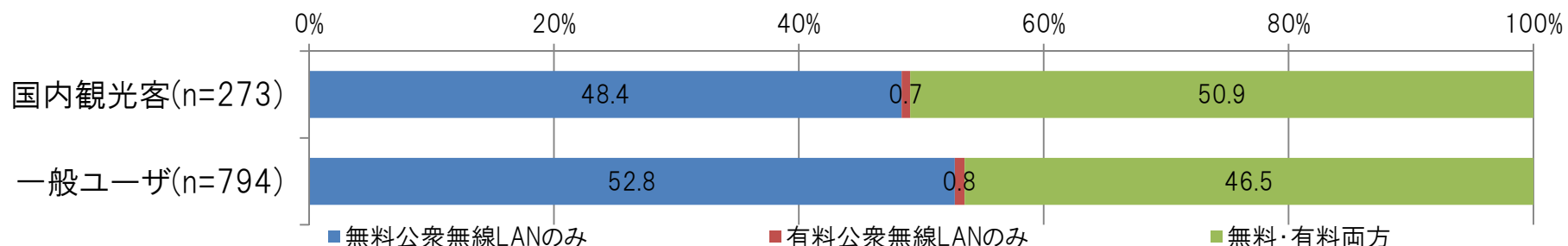
■ 普段利用する公衆無線LAN

- ▶ 公衆無線LANを日常的に利用する人のうち、「無料公衆無線LANのみの利用者」と「無料公衆無線LANと有料公衆無線LANの両方の利用者」が半々である傾向は前年度と同様だが、「無料公衆無線LANのみの利用者」の比率が若干、増加している。



対象はH26・H27ともに、公衆無線LANを日常的に利用している人のうち、首都圏以外に居住し、最近1年以内に首都圏を観光で訪れ、スマートフォンまたはタブレット端末を利用してインターネット接続をした経験のある人

- ▶ また、観光客である公衆無線LAN利用者も、一般の利用者も、「無料公衆無線LANのみの利用者」と「無料公衆無線LANと有料公衆無線LANの両方の利用者」が半々である傾向は同様だが、観光客である公衆無線LAN利用者の方が、若干、両方の利用者が多い傾向にある。

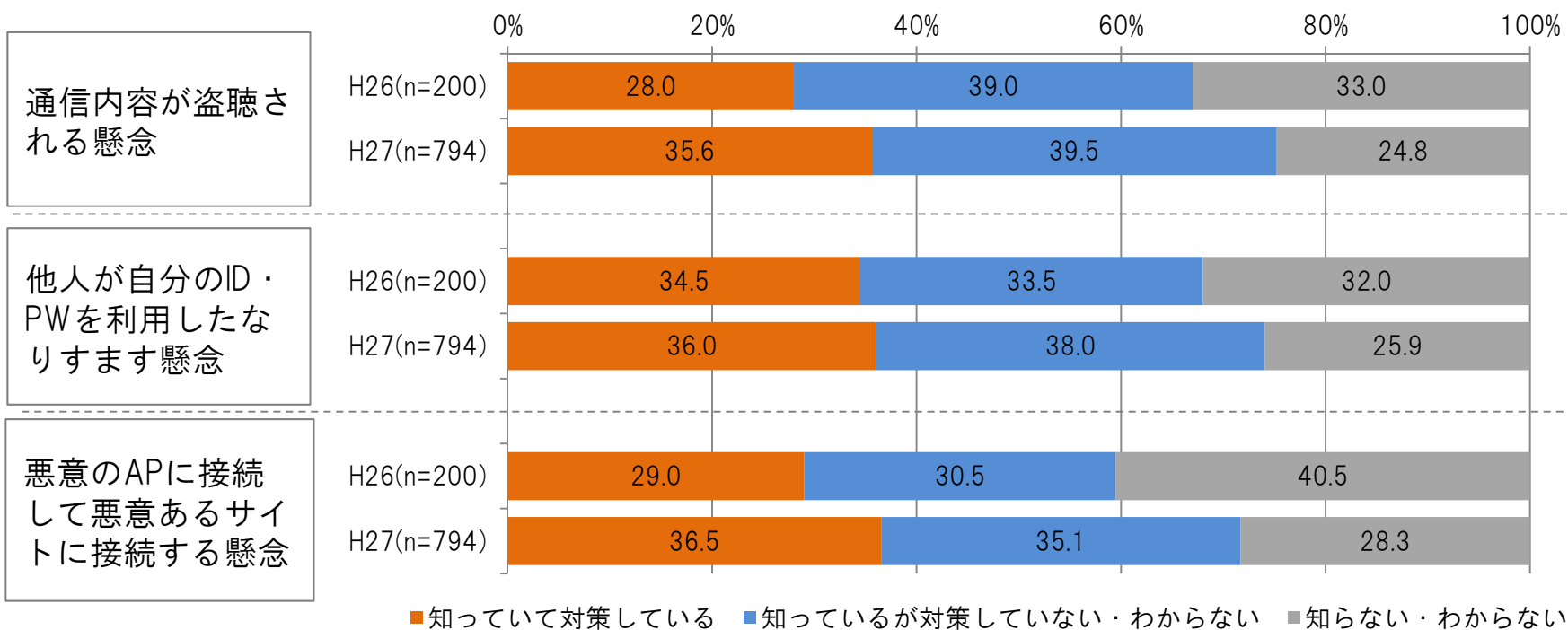


Point 2

昨年度と比べ、公衆無線LAN利用者のセキュリティ意識(リスクの認知や対策)は高まっている。

■ 公衆無線LAN利用に係る脅威の理解・対策実施

- ▶ 公衆無線LANを日常的に利用する人の情報セキュリティ意識が高まっている。
- ▶ 盗聴・なりすまし・悪意あるサイトへの誘導などのリスクについて、いずれも認知が高まっており、対策を講じる利用者比率も高まっている。



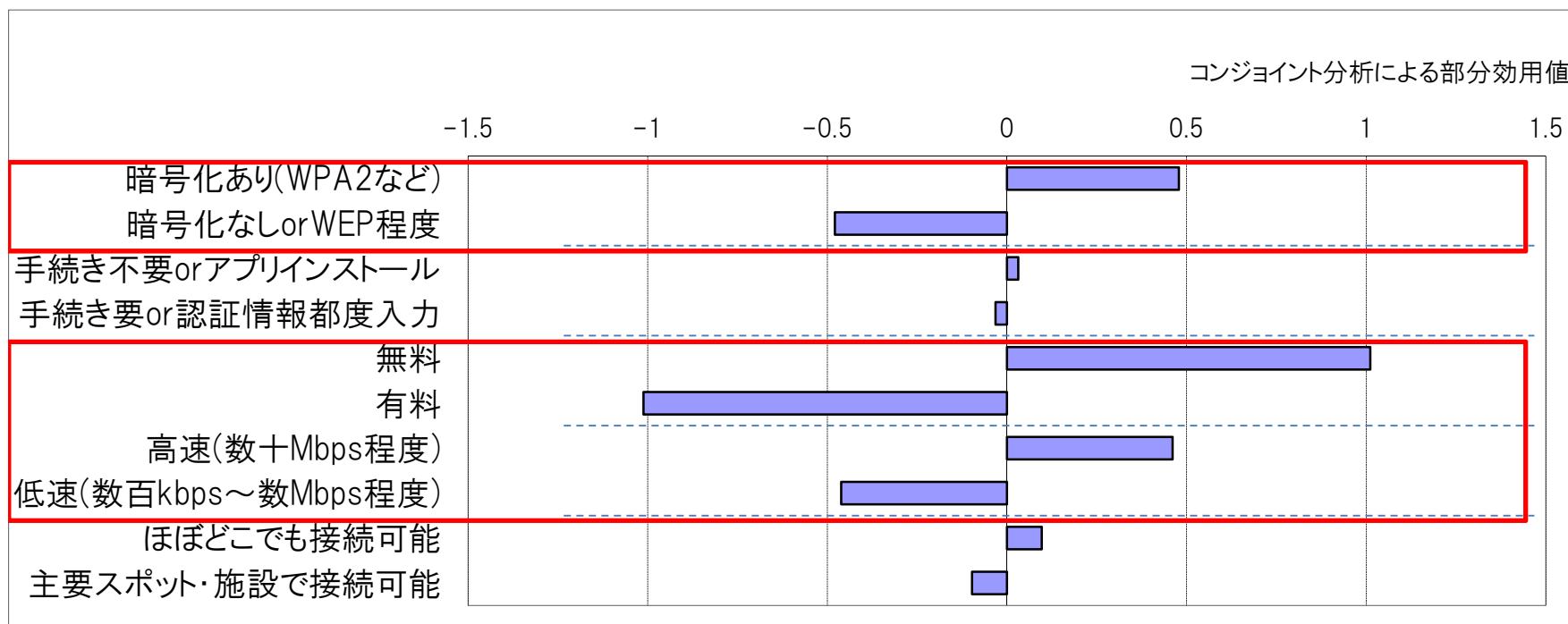
H26の調査対象は、公衆無線LANを日常的に利用している人のうち、首都圏以外に居住し、最近1年以内に首都圏を観光で訪れ、スマートフォンまたはタブレット端末を利用してインターネット接続をした経験のある人。H27の調査対象は、公衆無線LANを日常的に利用している人。

Point 3

ユーザの公衆無線サービス選好要因は、①料金(無料)、②セキュリティ(強い暗号化)、③通信速度(数十Mbps程度)、などが影響を与えている。

■ 公衆無線LANサービスの選択条件

- ▶ 公衆無線LAN利用者がサービスを選択する条件としては、「料金(有料か無料か)」が最も強い決定要因となっており、『無料』であることが強く影響している。
- ▶ 次いで、「セキュリティ(無線通信区間の暗号化)」が強い決定要因となっており、『(WPA2などの)強い暗号化がなされていること』が影響しており、「通信速度」における『高速(数十Mbps程度)』も同程度の影響を与えている。



Point 4

中高年ユーザのセキュリティ意識は高いが、若年ユーザの意識の低さに課題が残る。

■ 年代別に見た公衆無線LAN利用に係る脅威の理解・対策実施

- ▶ 公衆無線LANを日常的に利用する人の情報セキュリティ意識には世代間に大きな差異がある。
- ▶ 若年層では、盗聴・なりすまし・悪意あるサイトへの誘導などのリスクについて、いずれも認知や対策の比率が相対的に低く、中高年層では、相対的に認知率も高く、対策を講じている利用者比率も高い傾向にある。

